

梅原の子

Umehara Elementary School

梅原小学校 学校だより

令和5年 5月号

命をつなぐ たくましさ・しなやかさ

日差しが強まり、気温が上昇する季節となりました。登校してくる児童と一緒に歩くと、汗ばむこともあります。道すがら草花や虫や畑の様子に目をとめ、季節の移り変わりを感じている子どもの姿を見て、梅原の美しさや居心地のよさを実感しているこの頃です。

校庭では、タンポポが花やわたげになった姿をみることができます。タンポポの株は、寒い冬をじっと耐えて、花を咲かせます。今年咲いているタンポポは、去年のタンポポの種が、運動場にじっとどまり、芽を出して花をつけたか、学校の外から飛んできた種が芽を出して花をつけたものです。二年生の国語の教科書に「たんぽぽのちえ」というお話があって、タンポポが、種を遠くまで飛ばす秘密が書かれています。先日も、二年生の子が、わたげになったタンポポをゆらしながら、「遠くまで飛んでいって花をさかすよ。」と話していました。

今年のタンポポの花は、去年のタンポポの種から、去年のタンポポの花は、一昨年タンポポの種から命をつないできました。この梅原小学校の運動場には、いつからタンポポが咲いていたのでしょうか。想像すると不思議な気持ちになります。

日本には昔からある「ニホンタンポポ」と、外国から入ってきた「セイヨウタンポポ」の二種類があります。「セイヨウタンポポ」は、今から百年くらい前に、ニホンに入ってきて増えたといわれています。かつては、「セイヨウタンポポは、ニホンタンポポを滅ぼしてしまう」といわれていましたが、そういうこともなく「ニホンタンポポ」も命をつないでいます。好みの環境が異なるために、うまく住み分けをしていたり、他の種類のタンポポと合わさった雑種タンポポになったりして、たくましく命をつないでいるタンポポ。

私たち人間も、互いを攻撃してつぶし合うのではなく、互いの力を伸ばしながら生きていければ素晴らしいと思います。



校庭のタンポポ

◇熱中症を防ぐために

総務省消防庁のデータによると、過去の5月の熱中症による救急搬送者数は、去年は2668人のぼり、4年前の2019年は4400人を超えました。5月17日には、岐阜県揖斐川町の気温が35.1度となり、東海三県で今年初の「猛暑日」となりました。東海地方で5月に「猛暑日」となるのは、統計史上初です。

学校では、5月22日から登下校での日傘使用をお願いしています。朝は涼しいと感じても、児童が帰宅する時間帯には、暑さ指数(WBGT)が28(厳重警戒)を超える日もあります。校外学習に出かける日もあります。子どもは体温の調節能力が十分に発達していないので、気を配る必要があります。日傘を使用した登下校にご協力ください。